
幼なじみが厨二病に感染した。

愛梨沙

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幼なじみが厨二病に感染した。

【Nコード】

N0619Y

【作者名】

愛梨沙

【あらすじ】

どこにでもいる平凡な高校生、日高春樹。その幼なじみ、宮永雅が厨二病に感染した。

フィクションです

厨二病 とは

厨二病 とは？

<説明>

自分に自信が無いので「他人とは違う趣味を持っている」ということで無意味なキャラ作りをすること（高二病に含まれる場合もある）

男子が中学二年頃に取りがちな痛い行動

上記の時期の行動などを持ち出しての自虐ネタ

（中学二年頃の）幼稚な趣味の人間が好む物事という意味を込めた

W i k i p e d i aより引用。

つらつらと面倒くさい言葉が並んでいますが、何となくニュアンスで理解していただければ幸いです。

登場人物紹介【1話時点】

日高春樹（高二／17歳）

【ヒダカハルキ】

主人公。

顔立ちが普通。

どこにでも居そうな高校生。

一見クールだし、物事も落ち着いて考える事が出来るが、時たま雅にペースを乱される。

宮永雅（高二／16歳）

【ミヤナガミヤビ】

春樹の幼なじみ。

とっても可愛い。

周囲に影響を受けやすく、感情的になりやすい。
常にマイペースで、春樹に手を焼かせている。

<設定>

2人は幼少時から家族ぐるみで付き合いがあり、高校生になった今でも雅は春樹の家に入り浸っている。

互いに恋愛感情などは一切無い。

互いに気の許せる友人といった感じだ。

第1話：ある秋の日のこと。

新しい出会いの季節もつたる暑さも過ぎ去った初秋。

窓を全開にしてベッドに寝そべり、何週か前の週刊少年誌を読みふけていた俺、日高春樹に、同じく俺より一週新しい少年誌を読んでいた幼なじみの宮永雅が声を掛けた。

「んねえー、春樹い」

「なに」

目線は活字と絵を追ったままで、口を開く。

雅は「もぉ！真面目に聞いてよ！」と、言う。

仕方なく少年誌を傍らに開いたまま伏せて置き、身体を起こしてベッドに腰掛けた。

ちゃんと目線を雅に合わせて、再度問う。

「なに」

雅はふふつ、と小さく意味ありげに笑い、ずいっと俺に身体を近づけた。

普通なら色気を感じてドキマギしてしまうような構図なのかも知れないが、幼少から互いを知る俺達にそんなエロティシズムを求めてはならない。

「あのねえ、はるきい」

「早く言え」

「うん……あのねえ、言いくいんだけどお」

目線を伏せる雅。

いつもふざけている雅にしては珍しく真剣な様子だ。

「どうした？」

「うん……春樹はさあ」

目線を再び上げる雅。

俺達の目線が空中でぶつかり合う。

「春樹は、………今この世界が闇に吞まれようとしてる、って言うたら………どうする？」

雅が言う言葉を理解するのに、1分近くの時間を要した。

「えー、と……？」

「ねえ、どうする？」

雅は更に身体を押し寄せる。

俺はどうして雅がこんな事を聞くのか、心当たりを必死に考えてみた。

さっき言った事を覆すようで悪いが、雅の丰满な胸が俺の腕に押し

当たっているのだ。

やはり健全な男子高校生として、この状況はちよつとマズいだろう。

必死に考えて考えて、ようやく一つの可能性に行き着いた。

「雅……最近ファンタジーのラノベ読んだろ？」

雅は昔から周りの影響を受けやすい。

流行りのアニメの主人公を真似て英会話を勉強してみたり、小説に影響されて夏休みに自転車で日本一周する！って俺を巻き込んで旅に出たり。

勿論アニメの主人公のように英語がペラペラになるわけでもなく今でも英語は苦手で、自転車で日本一周の旅は俺が転んで腕の骨を折った事で中止になった。

だから今回も、闇がどうのこうの、光がどうのこうのっていうファンタジーな小説だかアニメだかを讀んだか観たかしたのだろう。

俺はそう決めて言ったのだが。

「違うよー!」

雅は否定、した。

「……は?」

違う?

じゃあ、どうして?

雅はいったん俺から離れて、自分のトートバッグをゴソゴソ漁りだした。

その中から真っ黒いサテンの小さなポーチと、大学ノートを取り出す。

「春樹。これから私が話す事をね、信じて欲しいの」

「……………」

「簡単には信じられない話だと思う。ううん、信じたくない、話かな」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0619y/>

幼なじみが厨二病に感染した。

2011年11月15日02時03分発行